

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

2011年 10 月 31 日

派遣者氏名（専門分野）	田中晶子（西洋史学）
-------------	------------

下記のとおり報告します。

記

研究テーマ	「1968年」のアメリカニズム —西ドイツの対抗的公共圏と「アメリカ」—
-------	---

派遣期間

2011年 7 月 27 日 ~ 2011年 9 月 28 日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問研究機関	ドイツ	ベルリン	ベルリン自由大学付属 APO 文書館	Siegward Lönnendonker
	ドイツ	ベルリン	フンボルト大学・ヨーロッパ民 族学研究所付属 アルタナティブ文化文書館	Falk Blask
	ドイツ	ベルリン	パピア・ティガー Papier Tiger	私営文書館につき該当研究者なし

派遣先で実施した研究内容

- ① ベルリン自由大学付属 APO 文書館では、西ドイツの学生運動期（1967-70 年）の対抗的公共圏を代表する抗議運動である「シュプリングァー・キャンペーン」に関する SDS（ドイツ社会主義学生同盟）の関連史料、および同時代の新聞・雑誌記事のコレクション、西ベルリンをはじめとする共和主義クラブ（RC）関連史料、ベルリン自由大学等の当該期の学生新聞などの一次史料を閲覧・調査した。具体的には、西ベルリンにおける「シュプリングァー・キャンペーン」の地域的な展開と APO 諸団体の具体的なメディア戦略を調査するとともに、運動の拡大にともない変化してゆく SDS や RC などの新左翼の政治運動と同時代の青少年による対抗文化運動との相互の関係性についても、史料の収集をおこなった。
- ② フンボルト大学ヨーロッパ民族学研究所付属アルタナティブ文化文書館では、ポスト学生運動期にあたる 1970~80 年代のアルタナティブ運動によって発行された雑誌・新聞を主に調査した。当該期のアルタナティブ・メディアの中心的な人物であったヨーゼフ・ヴィンチェスが主宰した雑誌 Ulcus Molle Info をはじめとする多様なアルタナティブ・メディアを調査することで、当時のアルタナティブ運動間の人的ネットワークと相互交流についても概観を得ることができた。これらの調査によって、学生運動期にはじまる対抗的公共圏が、1970 年代以降のアルタナティブ運動の展開のなかで、どのように新たな潮流や試みとむすびつき変容してゆくか、具体的な過程を分析する基礎的な史料を収集することができた。また、同文書館は、西ドイツで販売された英米圏のアンダーグラウンド新聞・雑誌も多く所蔵しており、西ドイツのアルタナティブ・メディア上での反響の分析や両者の比較をおこなうことで、同時代のアメリカの対抗文化運動が西ドイツの対抗的公共圏の形成におよぼした影響と、具体的な受容の一端を調査することができた。

③私立文書館「パピア・ティガー」では、1970年代以降の青少年の対抗文化運動の実態に関する史料を調査した。主として、西ベルリンをはじめとする都市部で行われた青少年による家屋不法占拠運動と、青少年自身によって管理・運営される余暇と共同生活施設 Jugendzentrum 建設運動に関する一次史料、および同時代の新聞・雑誌記事を閲覧した。具体的には、1970年代のアルタナティーフ運動が展開された社会的背景、特に青少年をとりまく余暇や住環境に関わる具体的なデータと青少年自身のそれらに対する認識を調査するための基礎的な史料の収集をおこなった。

④ベルリン州立図書館（ポツダム広場・ヴェストハーフェン両館）では、研究テーマに関する二次文献および新聞・雑誌をふくむ同時代文献を閲覧し、1970年代のアルタナティーフ・メディアのカタログや同時代のアメリカの対抗文化運動に関する文献の収集・複写をおこなった。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

【研究の当初の目的と達成状況】

本研究の当初の目的は、1960-70年代に西ドイツの青少年によって制作・購読された「対抗的公共圏」の歴史的特徴を、①メディアが作成される具体的な環境と同時代の社会運動との関係、②そこにあらわれるアメリカの文化的影響力に注目し、社会史的な手法によって明らかにすることにあつた。上記の文書館での調査によって、これまで、思想史的方法論にもとづく「公共圏」概念の内在的な分析に偏りがちであった当該期の「対抗的公共圏」を、具体的な社会運動の展開とメディア環境のなかで再検討するための基礎となる一次史料を収集・分析することができた。

【明らかにできた成果】

学生運動期（1967～1970）年代の「対抗的公共圏」は、当初、シュプリングー出版社に対する批判として共和主義クラブや学生組織によって開始されたが、抗議運動の規模が拡大するにつれて、次第に狭義の政治運動から拡散し、同時代の青少年の対抗文化運動による概念の流用や新たな青少年サブカルチャーとの融合が見られるようになる。この傾向は、ポスト学生運動期にあたる1970年代のアルタナティーフ運動においてより顕著になり、新たなライフスタイルを模索する多様な運動と潮流の結節点として、アルタナティーフ・メディアが機能してゆく。その際、同時代のアメリカの対抗文化と青少年によるメディア活動は、西ドイツには存在しない新しいメディアと文化の参照枠として、多大な影響を及ぼしたと考えられる。

派遣後の研究発表の予定

【国内での研究報告・論文投稿予定】

2011年12月18日開催のシンポジウム「戦争と世代」の20世紀—日本とドイツ—で戦後日本と西ドイツの青少年サブカルチャーの文化史について研究報告を行う際に、今回のリサーチで調査・収集した史料を一部使用した。

また、フンボルト大学ヨーロッパ民族学研究所付属アルタナティーフ文書館とパピア・ティガー文書館で調査した史料についても、追加的な調査と史料の分析をおこなったのち、ドイツ現代史研究会等で研究報告をし、最終的に投稿論文として研究成果を公表したいと考えている。